

事業名:コンゴ民主共和国 キンシャサ特別州看護基礎教育課程における 臨床実習指導者能力強化プロジェクト

実施主体:国立国際医療研究センター

対象国:コンゴ民主共和国

対象医療技術等:②看護基礎教育に係る人材開発

事業の背景

コンゴ民主共和国(以下、コンゴ民)では、1990年代から続いた国内紛争や不安定な政治経済状況により、質の高い保健医療サービスが提供されていない。そのため、5歳未満児死亡率は85/出生千人(2019年)、妊産婦死亡率は473/出生10万人(2017年)と高く、その要因として保健人材の能力や量的な不足が指摘されている。この課題に対応すべく、同国保健省は2005年以降、中級保健人材養成校における看護師養成プログラムを改定し、コンピテンシーアプローチの導入と普及に取り組んでいるが、教員・臨床実習指者の指導能力と臨床実習指導体制の質が課題とされている。この課題に対応すべく、コンゴ民保健省は、JICA支援のもと全26州のうち1州において臨床指導者の指導能力強化を図っている。他方、キンシャサ特別州内の全102校の中級保健人材養成校においては、コンピテンシーアプローチによる看護師養成プログラムの導入には至ったものの、臨床指導者への介入は行われていない。上記の背景のもと、コンゴ民保健省基礎教育局より、キンシャサ特別州における指導能力強化体制の構築に向けた支援要請があった。

事業の目的

コンゴ民 キンシャサ特別州の中級保健人材養成校における、コンピテンシーアプローチによる看護師養成プログラムにおける臨床実習指導の質を、中級保健人材養成校(看護師養成校)の教員及び実習受入先の臨床指導者の実習指導能力の強化を通して改善させる。

1

コンゴ民主共和国(以下、コンゴ民)は、1990年代から続いた国内内戦や不安定な政治経済状況により、国内のインフラが破壊し、保健システムが機能不全に陥りました。その影響により、保健人材の無計画な養成と配置が行われ、都市と地方における保健人材の偏在等が起り、質の高い保健医療サービスが提供されていない現状があります。

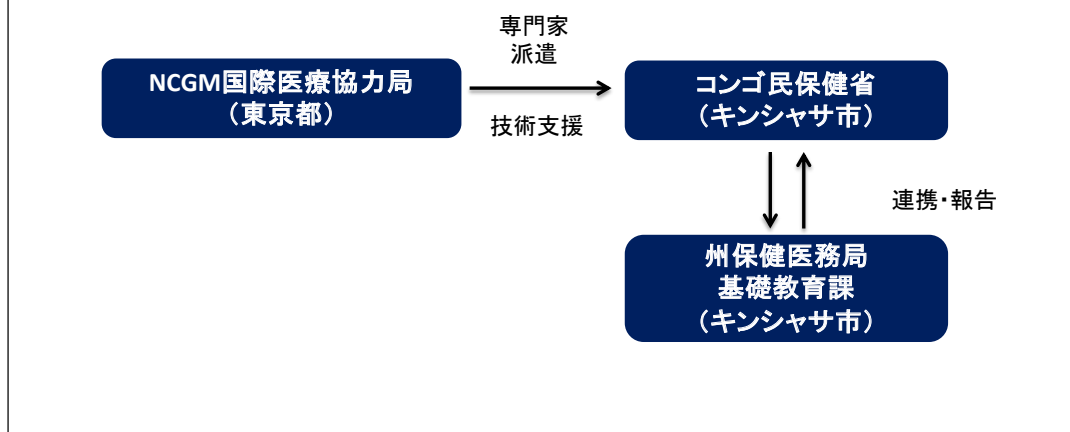
そのため、5歳未満児死亡率は85/出生千人(2019年)、妊産婦死亡率は473/出生10万人(2017年)と高く、その要因の一つとして、保健人材の能力や量的な不足が指摘されています。

この課題に対応すべく、同国保健省は2005年以降、中級保健人材養成校における看護師養成プログラムを改定し、コンピテンシーアプローチの導入と普及に取り組んでいます。他方、看護行政官や看護教員対象の質が担保された指導能力を強化する標準プログラムが存在せず、教育現場で様々な課題を抱えています。

同国保健省は、JICA支援のもと全26州のうち1州において臨床指導者の指導能力強化を図ってきました。他方、キンシャサ特別州では、州内の看護師養成校全102校において、コンピテンシーアプローチによる看護師養成プログラムの導入には至ったものの、臨床実習指導者の能力強化に関する介入が行われていない現状がありました。これに対し、同国保健省より、キンシャサ特別州における臨床実習指導者を含む、同国の看護師養成プログラムにおける指導能力強化体制構築に関する支援要請を受け、令和5年度より本事業を開始しました。

本事業の目的は、キンシャサ特別州の中級保健人材養成校における看護師養成プログラムの普及に係る行政官、養成校の教員及び実習受入先の臨床指導者の実習指導能力の強化を通じ、同国における看護師養成の質をの改善に貢献することです。

実施体制



研修目標

NCGM国際医療協力局が、看護基礎教育分野における国際的経験・知見を活かし、コンゴ民主共和国保健省と連携し、コンピテンシーに基づく看護師養成プログラムにおける標準化された指導能力強化体制の構築に向けて、2種類の国家ガイド(①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド、②中級保健人材養成校現状調査国家ガイド)を策定する。

2

事業の実施体制は、NCGM 国際医療協力局がカウンターパートであるコンゴ民保健省（主に基礎教育局）と連携しながら事業を進めています。

令和5年度の研修目標は、コンピテンシーに基づく看護師養成プログラムにおける標準化された指導能力強化体制の構築に向けて、2種類の国家ガイド（①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド、②中級保健人材養成校現状調査国家ガイド）を策定することを掲げました。

1年間の事業内容

令和5年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
オンライン会議 (毎月)					■	■	■	■	■	■
キックオフミーティング 日本人専門家1名派遣 (3日間)	■ ■ ■ ■ ■									
現地研修1 (9月) 日本人専門家3名派遣 (2日間)				■ ■ ■ ■ ■						
現地研修2 (10月) 遠隔支援					■ ■ ■ ■ ■					
現地研修3 (12月) 日本人専門家1名派遣 (1日間)							■ ■ ■ ■ ■			
現地研修4 (1月) 遠隔支援									■ ■ ■ ■ ■	
現地研修5,6 (2月) 日本人専門家3名派遣 (2日間)										■ ■ ■ ■ ■

現地研修(ワークショップ)1
研修計画の最終化と関係者との合意形成のためのワークショップ

現地研修(ワークショップ)2
①②の国家ガイド草案策定ワークショップ
①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド
②中級保健人材養成校現状調査国家ガイド

現地研修(ワークショップ)3
2種類の国家ガイド策定に関するワークショップ
R5年度後半は②を優先的に最終化することが合意された

現地研修(ワークショップ)4
①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド改訂ワークショップ

現地研修(ワークショップ)5,6
①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド最終化ワークショップと国家承認会議

3

1年間の活動は、保健省基礎教育局・現地雇用職員との定期的なオンライン会議を通じた密なコミュニケーションのもと、遠隔・対面の双方で活動を進めました。

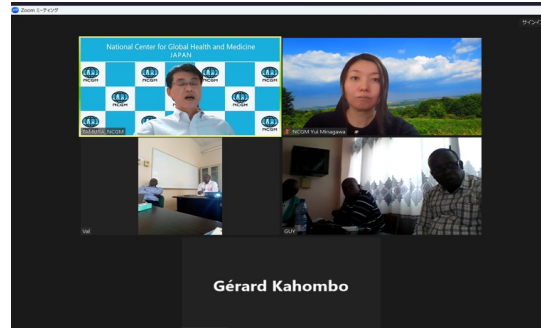
今年度は、キックオフミーティングを含む7回の現地研修(ワークショップ)を実施しましたが、そのうち日本人専門家の渡航による研修開催は4回で、2回は現地雇用職員の協力を得て、遠隔支援にて活動を実施しました。

また、当初は、看護師養成プログラムの普及に係る2種類の国家ガイド(①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド、②中級保健人材養成校現状調査国家ガイド)を策定することを目標としていましたが、12月の対面協議にて、同国保健省にとって優先順位の高い「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」の最終化に焦点を当てること合意され、2月にはこのガイドが同国保健省保健人材委員会にて国家承認されました。



**現地研修1: 研修計画最終化と関係者との合意形成
ワークショップ**

本事業の説明と研修計画最終化に向けた協議の様子



オンライン会議:

定期的に基礎教育局関係者・現地雇用職員とオンライン会議を開催し、活動に関する意見交換、進捗確認等を行う様子



現地研修2: 2種類の国家ガイド草案策定ワークショップ

基礎教育局関係者・現地雇用職員との事前協議・準備を重ね、遠隔にてワークショップの開催を支援した



現地研修3: 2種類の国家ガイド策定に関するワークショップ

基礎教育局局員による研修2で策定された2つのガイドの詳細に関する発表の様子

4

現地関係者との定期的なオンライン会議を通して、現地の現状やニーズを把握し、国家ガイド策定に向けたワークショップの開催を支援しました。

TeamsやZoom、WhatsApp等を活用し、それぞれの活動の事前協議や準備を十分に重ねることで、より効率的で効果的な対面・遠隔での活動の実施につなげました。



現地研修4:コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド改訂ワークショップ

現地研修3での協議内容に基づき、コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド草案の改訂作業を行っている様子



**現地研修5:コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド
最終化ワークショップ**

ガイド最終化に向けた日本側からの追加
コメントについて共有し、最終協議している様子



現地研修6:ガイド国家承認会議

基礎教育局課長による、コンゴ民の背景を考慮して適応した
「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル」
に関する説明が行われている様子

5

コンピテンシーアプローチ導入国家ガイドの策定過程において、日本及びグローバルな知見をもとに、質が担保された国家ガイドを策定すべく、「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル (Pater et al.,2013)」の活用を提案しました。

その後、保健省基礎教育関係者との協議を重ねた結果、コンゴ民の基礎教育をとりまく現状を十分に考慮した概念モデルが開発され、同国の教育現場において実用可能な国家ガイドが策定されました。

コンゴ民主共和国 キンシャサ特別州看護基礎教育課程における臨床実習指導者能力強化プロジェクト

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①オンライン会議開催数:6回 ②現地研修での対象者 -保健省基礎教育局:15名 -キンシャサ特別州保健局基礎教育課:2名 ③研修終了後に研修受講者にアンケートを実施する ④国家ガイド案のプレテストが実施される	①中級保健人材養成校の現状評価のための国家ガイドが国家保健人材委員会で承認される ②コンピテンシーに基づく教育導入のための国家ガイドが国家保健人材委員会で承認される ③研修終了後のアンケートにて、研修受講者の8割以上が満足と回答した	①標準化された中級保健人材養成校の現状評価方法が他州へ普及する ②標準化されたコンピテンシーに基づく教育導入方法が他州へ普及する ③その結果、国全体において、座学および臨床実習がより運動するかたちとなり、看護基礎教育の質が改善する
実施後の結果	①オンライン会議開催数:20回 ②現地研修での対象者 現地研修:7回開催(キックオフミーティングを含む) ●キックオフミーティング/5月 ●①コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド、②中級保健人材養成校現状調査国家ガイド策定に係る研修を合計6回実施した(そのうち日本人専門家渡航による研修開催は4回。2回は現地雇用職員の協力を得て、遠隔支援にて研修を開催した) ●研修員:延べ104名(保健省基礎教育局行政官延べ66名、州保健局基礎教育課行政官2名、中級保健人材養成校職員4名、保健人材委員会委員20名、現地雇用職員延べ12名)が研修を受講した。 ③研修受講者13名よりアンケートを回収した	①中級保健人材養成校の現状調査国家ガイド作成については、今年度は見合わせとし、次年度計画として再検討することを基礎教育局関係者と合意済み ②コンピテンシーアプローチ導入国家ガイドが、国家保健人材委員会にて承認された(2024.2.29) ③研修終了後アンケートにて、研修受講者の10割が満足と回答した ④コンピテンシーアプローチ導入国家ガイドが国家承認されたが、今年度はプレテストには至らず(次年度計画に、承認されたコンピテンシーアプローチ導入国家ガイドを活用したパイロット研修を計画している)	①標準化された中級保健人材養成校の現状評価方法が他州へ普及することが期待される ②標準化されたコンピテンシーに基づく教育導入方法が他州へ普及することが期待される ③その結果、国全体において、座学および臨床実習がより運動するかたちとなり、看護基礎教育の質が改善することが期待される

6

こちらに今年度の成果の指標とその結果を示します。

アウトプット指標としては、延べ104名の研修員(保健省関係者)が現地研修(ワークショップ)に参加し、目標値を達成しました。

本事業では、保健省基礎教育局行政官と現地雇用職員の協力を得ながら、国家ガイドの策定に係る合計7回の現地研修(ワークショップ)を実施しました。

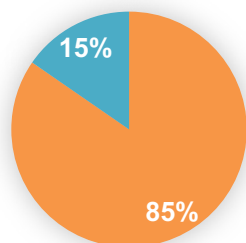
また、当初の計画では2つの国家ガイド(「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」「中級保健人材養成校現状調査国家ガイド」)の策定を予定していましたが、令和5年度は上位文書である「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」の最終化を優先し、その下位文書にあたる「中級保健人材養成校現状調査国家ガイド」の策定については見合わせとし、次年度計画として再検討することが基礎教育局関係者と合意されました。

アウトカム指標としては、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」が最終化され、国家保健人材委員会にて承認されたことが今年度の大きな成果の1つと言えます。

また、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」が国家承認されましたが、今年度はプレテストの実施には至っておらず、次年度計画に、承認されたガイドを活用したパイロット研修の実施を計画しています。

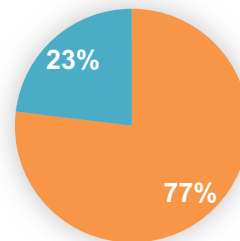
コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド策定研修に関するアンケート結果

1. 「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル」が理解できましたか？



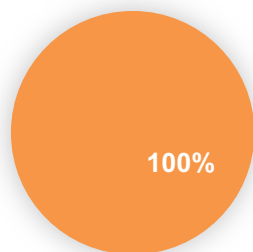
■ とても理解できた ■ 理解できた
■ あまり理解できなかった ■ 全く理解できなかった

2. 「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル」を「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」の策定に活用することができましたか？



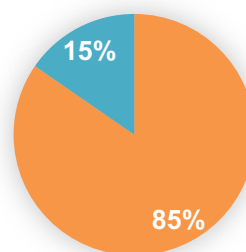
■ とても活用できた ■ 活用できた
■ あまり活用できなかった ■ 全く活用できなかった

3. 国家ガイド策定研修での学びは、今後の業務に活用できるものだと思いますか？



■ とても活用できる ■ 活用できる
■ あまり活用できない ■ 全く活用できない

4. コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド最終化ワークショップを終えての満足度を評価してください



■ とても満足している ■ 満足している
■ あまり満足していない ■ 全く満足していない

こちらは、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」に関する研修（ワークショップ）終了後のアンケート結果となります。

アンケートの結果から、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」に適応された概念モデルに関する保健省基礎教育局関係者らの理解が促進されたことがわかります。

「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル」の活用により、保健省基礎教育関係者によって、コンゴ民看護基礎教育課程におけるコンピテンシーアプローチ導入に必要な不可欠な要素と枠組みが整理され、同国の看護教育現場における一貫性のある実用可能な国家ガイドの策定につながりました。

今年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数:(1)
本事業で紹介した「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル (Pater et al.,2013)」を採用した「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」が保健省により承認された。
- 事業で紹介・導入し、対象国の調達につながった医療機器の数:(該当なし)



健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数):**104名**
保健省基礎教育局行政官 延べ66名、州保健局基礎教育課行政官2名、中級保健人材養成校職員4名、保健省保健人材委員会20名、現地雇用職員延べ12名
- 日本で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数:(次年度計画中)
- 対象国で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数:(次年度計画中)
- 研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数:(次年度計画中)
- 過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数(次年度計画中)。

医療技術における事業インパクトとして、国家計画／ガイドラインレベルでは、コンゴ民において初となる「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」が策定され、またこのガイドが保健省により国家承認されたことが挙げられます。

健康向上における事業インパクトとして、事業で育成した保健医療従事者は延べ104名でした。

これまでの成果

① コンピテンシーアプローチ導入国家ガイドの策定

- 保健省基礎教育局を支援し、コンゴ民初の「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」が保健省保健人材委員会にて国家承認された。
- 本ガイドは「エビデンスに基づく基礎教育に不可欠な要素の概念モデル (Pater et al.,2013)」を適応しており、看護師養成校教員の指導能力強化の展開を含む、コンゴ民におけるコンピテンシーアプローチの導入に欠かせない包括的な枠組みを定めた、看護基礎教育実務者の実用的ガイドと位置付けられた。

② 国家ガイド策定研修を通じた基礎教育関係者の能力強化

- 遠隔・対面による、国家ガイド策定研修を提供し、保健省基礎教育局行政官延べ66名、州保健医務局基礎教育行政官2名、中級保健人材養成校教員4名らの、エビデンスに基づく基礎教育指導能力強化に関する理解が深まり、今後の国際展開推進事業を推進する人材育成に貢献した。

今後の課題

- 「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」を活用した、キンシャサ州保健局医務局員、看護師養成校教員（臨床実習指導者を含む）の指導能力強化体制の構築
- 「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」の運用にむけた、左記ガイドを補完するための下位文書（中級保健人材養成校現状調査ガイド、看護師養成プログラム指導能力強化標準プログラム等）の作成

9

令和5年度の成果は、保健省基礎教育局を中心に支援を行い、コンゴ民初となる「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」が策定され、これが保健省保健人材委員会にて国家承認されました。

尚、本ガイドによって、看護師養成校教員の指導能力強化研修を展開するために必要な、コンゴ民におけるコンピテンシーアプローチの導入のための包括的な枠組みが定められました。これにより、同国の看護基礎教育関係者にとって不可欠かつ実用的なガイドとして位置付けられたことも大きな成果と言えます。

この国家承認されたガイドは、他の開発パートナーにも共有される予定であり、今後の関係者連携が期待されます。

今後の課題は、国家承認された「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」を活用し、キンシャサ州保健局医務局員、看護師養成校教員（臨床実習指導者を含む）らの指導能力強化を図ることです。

そのため、今年度国家承認されたガイドの運用に向け、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」を実装する際の下位文書にあたる「中級保健人材養成校現状調査国家ガイド（令和5年度に最終化に至らなかった文書）や、看護師養成プログラム指導能力強化標準プログラム等」を追加で作成し、看護師養成プログラム普及に係る実務者（行政官・教員・臨床実習指導者等）の指導能力強化研修を実施していく予定です。

将来の事業計画

①令和5年度に策定した「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」を基に、ガイドの下位文書として、「①中級保健人材養成校現状調査国家ガイド、②看護師養成プログラム指導能力強化標準プログラム」を開発し、保健省基礎教育局による、州保健医務局基礎教育行政官及びキンシャサ州全102校中10校程度の看護教員を対象としたパイロット研修の実施を計画している。

※なお、①②の開発は、基礎教育局行政官らが、日本の看護大学認証評価制度、看護教育体制・制度、看護教員の能力強化の方策等を本邦にて学び、それらの知見を活かし、コンゴ民の教育現場で実用可能な文書やプログラムを策定することができるよう支援予定である。

②令和7年度は、必要に応じて標準プログラムを改訂し、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」の普及計画の保健政策への反映を支援する予定である。同時に、令和6年度事業で育成された州保健局基礎教育課行政官による、キンシャサ市内の残り92校の看護教員への指導能力強化研修の実施を通じた、キンシャサ州全体の看護師養成プログラムの指導能力強化の支援を企画している。

※なお、持続可能な指導能力強化の体制構築に向け、各種研修は行政官と看護教員を分離せず合同開催し関係強化を図ることで、看護師養成の質改善に貢献する。

10

最後に、将来の事業計画としては、引き続き、コンゴ民の看護師養成プログラムの普及・実施体制に関する現状と現場のニーズを踏まえながら、令和5年度の成果物である「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」の実用に向け、日本の知見を活用し、下位文書の開発を支援します。

尚、下位文書にあたる「中級保健人材養成校現状調査国家ガイド」や、「看護師養成プログラム指導能力強化標準プログラム」の開発については、本邦における日本の看護大学の認証評価制度や看護教育制度、看護教員の能力強化の方策等の学びをもとに、コンゴ民において実用可能な文書やプログラムの開発を行うことができるよう、保健省基礎教育局への技術支援を継続していきます。

更に、令和7年度には、令和6年度のパイロット研修の評価結果に応じて標準プログラムを改定し、「コンピテンシーアプローチ導入国家ガイド」普及計画の保健政策への反映を支援します。

同時に、キンシャサ市内の残りの全学校の看護教員（臨床実習指導者を含む）への研修実施を通して、キンシャサ州全体における看護師養成プログラム指導能力強化を支援し、同国における看護師養成プログラム指導能力の標準化と、持続可能な指導能力強化の体制構築を通して、看護師養成の質の改善を目指します。